

製品名: サイクリン B1 (リン酸化 Ser126) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04517**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	60kDa

抗原情報

遺伝子名	CCNB1
別名	CCNB1; CCNB; G2/mitotic-specific cyclin-B1
遺伝子 ID	891.0
SwissProt ID	P14635
免疫原	抗血清は、ヒトサイクリン B1 の Ser126 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 91-140

背景

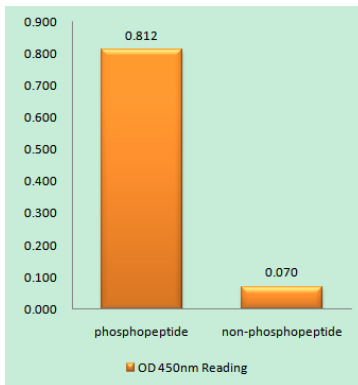
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、有糸分裂に関する調節タンパク質です。この遺伝子産物は p34(cdc2)と複合体を形

成し、成熟促進因子（MPF）を形成します。恒常的に発現する転写産物と、主に G2/M 期に発現する細胞周期制御転写産物の 2 つの代替転写産物が発見されています。これらの異なる転写産物は、異なる転写開始部位の利用によって生じます。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],発生段階: G2 期に着実に蓄積し、有糸分裂時に突然破壊されます。機能: G2/M (有糸分裂) 移行期における細胞周期の制御に必須です。PTM: 間期に SCF(NIPA)複合体によってユビキチン化され、破壊されます。G2/M 期にはユビキチン化されない。類似性: サイクリンファミリーに属する。類似性: サイクリンファミリーに属する。サイクリン AB サブファミリー。サブユニット: CDC2 タンパク質キナーゼと相互作用して、セリン/スレオニンキナーゼホロ酵素複合体 (成熟促進因子 (MPF) としても知られる) を形成する。サイクリンサブユニットは複合体に基質特異性を付与する。HEI10 に結合する。有糸分裂中に触媒活性を持つ RALBP1 および CDC2 と相互作用し、間期にエンドサイトーシス複合体を形成する。

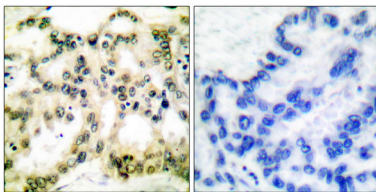
研究分野

AMPK

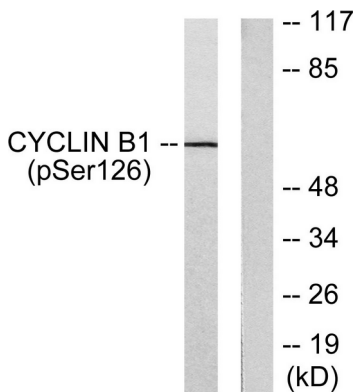
画像データ



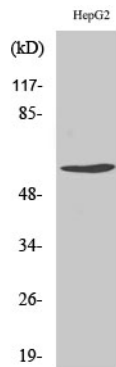
サイクリン B1 (リン酸化 Ser126) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



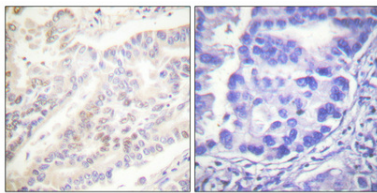
サイクリン B1 (リン酸化 Ser126) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



EGF 200 ng/ml 15 'で処理した NIH/3T3 細胞のライセートを、サイクリン B1 (リン酸化 Ser126) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化サイクリン B1 (S126) ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。